

将来 健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現

中学校 心身の健康に向けて主体的に運動に取り組み、スポーツに親しむ生徒の育成

- 小学校で身につけた知識や技能をいかすことのできる生徒
- 体力を高め、健康的な生活を送るための方法を考えたり、開発したりすることができる生徒

- 生涯にわたり健康的な生活を送っていかとうとする思いを高める生徒



心と体の健康に関心を持ち、運動やスポーツに親しむ子どもの育成 ～子どもの思いとつながりを大切にした教育活動を通して～

小学校 よりよい生活を送ろうとする子

健康や安全に関心を持ち、心身ともに健康な自分自身をつくるために、自ら考え行動する子

運動やスポーツに親しむ子

運動やスポーツの魅力に気づき、仲間と体を動かす楽しさを味わいながら、すすんで運動する子



<子どもの実態>

- 素直に物事を捉え、なにごとにも幅広く興味をもつ子どもが多い。自分が「できそうだ」「必要だ」と感じたことには、やってみようという気持ちにかられ、行動に移そうとする。
- 食事のとり方に偏りがある子どもやあまり運動をしない子ども、十分な休養をとっていない子どもがいる。

- ◎生涯にわたり、健康で豊かな生活を送るために学校教育活動を通して心と体の健康に対する意識を高めたい。

<家庭・地域の実態>

- 市内でも有数の在籍数が多い学校である。家庭環境が多様になり、子どもたちは、生活する中で多くの考え方に触れている。
- 一小一中であるため、9年間仲間が変わることなく学校生活を送る。
- 本校が川や海に近いこともあり、防災意識が高い。
- ◎地域や家庭と連携しながら、健康的な生活について考えたり、運動したりすることで、よりよい生活習慣づくりに対する意識を高めたい。

<社会の要請～なぜ今健康教育なのか～>

- 子どもたちの大きな健康問題
- 子どもたちの体力、運動能力は今なお低下傾向にある。これは、幼小期の外遊びや運動経験の偏りとライフスタイルの変化による食事、睡眠などの生活習慣の乱れが原因の一つとして考えられる。
 - 生活習慣の乱れは、将来、生活習慣病として子どもたちの健康を脅かす恐れがある。

「生きる力」としての「健康教育」

- 子どもたちの健康問題が日本社会全体に対してますます大きな影響を与える予測されている今、生涯にわたって健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指して、「生きる力」の素地の育成が必要である。
- ◎基本的な生活習慣の確立に向けて、子どもが自ら運動に親しんだり、健康的な生活を送ることができるような資質や能力を育みたい。

研究の仮説

毎日の生活に目を向け、体を動かす楽しさや成長する喜びを味わう経験を重ねながら、主体的に学び合っていけば、健康な自分自身をつくることよきに気づき、よりよい生活を送ろうとしたり、運動・スポーツに親しんだりする子になるだろう。

吉小サイクル

本研究では、以下の3点を大切に、子どもが主体的に学び合うことができる授業づくりを目指している。

- 本時の学習問題を子どもたちがしっかりとつかんでいるか
- 個の学びだけでなく、仲間とともに学び合い、その学びを深めているか
- 学んだことを追究し続け、次の学びへとつなげようとしているか

このような授業過程を本研究では「吉小サイクル」と呼び、どの教科の学習にも取り入れている。



WONDERとWONDERポイント

単元や本時の目標にせまる過程で、子ども同士が関わり合いながら「なるほど、わかった、できた」など達成した喜びを感じたり、「なぜ、どうして」と立ち止まったりするための教師の出を「WONDERポイント(WP)」と呼び、授業の中に位置づける。

- W …… わかった
- O …… おおっ
- N …… なるほど、なぜ
- D …… できた、だって
- E …… ええっ
- R …… れんけい(連携・連繋)